

管内の概況

位置・気候

稚内開発建設部が管轄する宗谷地域は、北海道の北部に位置し、北海道本島最北端の地である宗谷岬は45°31'22"に位置しています。東はオホーツク海、西は利尻・礼文の離島を望む日本海に面しており、北は宗谷海峡で隔てた約43km先にサハリン(旧樺太)の島影を望むことができます。



利尻山

宗谷地域の地勢は、「周氷河地形」と呼ばれるなだらかな斜面と低い山が多い宗谷丘陵や広大なサロベツ湿原と猿払原野のほか、各河川の流域などに平野が広がっています。また、利尻島は海拔1,721mの利尻山(成層火山)を中心とした円形の島であり、礼文島は南北に細長いなだらかな丘陵の島です。

気候は、日本海、オホーツク海に面する海洋性の気候と、山岳地帯及び河川流域の内陸性の気候に大別することができます。冬は、日本海側では対馬海流の影響もあり氷点下10度以下になることが少なく比較的温暖ですが、風が強いのが特徴です。オホーツク海側では流氷などの影響もあり寒暖の差が大きくなっています。また、夏は海岸地帯より内陸部で気温の高い日が多く、冬の内陸部は寒冷で、降水量、積雪量も多くなっています。

面積・人口

宗谷地域の総面積は、4,625.70km²で、北海道の総面積の約5.5%を占め、ほぼ京都府(4,612.20km²)と同じ広さを有しています。管内の人口は、57,704人(令和5年12月31日現在)で、全道総人口の約1.1%となっています。

産業

管内の主要産業は、道内有数の酪農地帯となっている「農業」、沿岸漁業を中心に展開される「水産業」が大きな柱となっています。「農業」では多くの生乳がバターや脱脂粉乳などに加工され、一部は牛乳として全道のコンビニエンスストアなどに出荷されています。「水産業」ではホタテがアジアやアメリカ、EU向けに輸出されるなど、世界に誇るブランドに成長しています。

一方、宗谷地域は全国でも有数の風力発電の適地であり、風力発電施設の建設や送電網の整備など、豊富な再生可能エネルギーを活用するための取組が進められています。

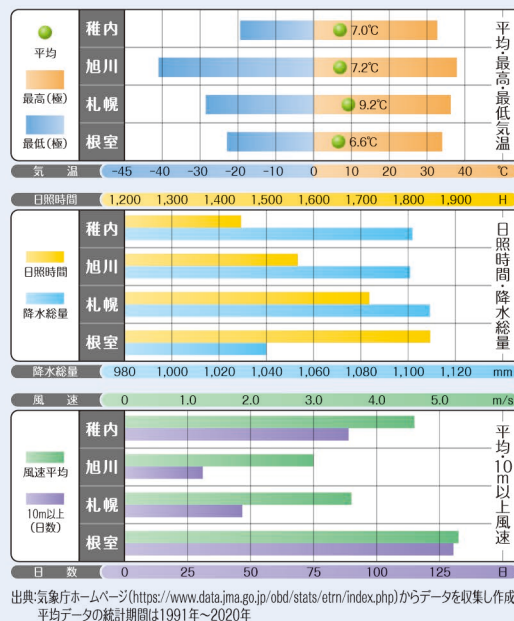
農業

管内の農業は、昭和31年に集約酪農地域の指定を受けて以来、酪農専業に転換を図り、昭和40年代以降は国営農地開発事業等によって生産基盤の拡大を推進し、広大な牧草地を活かした乳牛の多頭飼育による大規模酪農専業地域として発展しています。

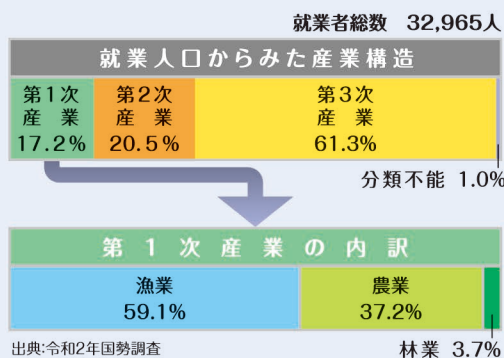
離島を除く管内の農業経営体数は679経営体、耕地面積は6万2千haで、経営体当たりの面積は92haと全道平均の約2.8倍に当たる規模となっています。

宗谷農業の概要				
区 分		稚内開発建設部管内 (離島を除く)	全 道	全道対比
種 別				
農業経営体数 ① (※3)		679	34,913	1.9 %
耕地面積 (ha)	総 数 ②	62,330	1,141,000	5.5 %
	経営体当たり ③ (②/①)	92	33	278.8 %
乳 用 牛 (頭)	飼養経営体数 ④	569	5,543	10.3 %
	飼 養 頭 数 ⑤	63,652	810,699	7.9 %
	経営体当たり ⑥ (⑤/④)	112	146	76.7 %
生乳生産量 (t)		318,944	4,309,275	7.4 %

出典：農業経営体数・乳用牛飼養経営体数・飼養頭数：2020年農林業センサス
耕地面積：2022年農林水産省 作物統計調査
生乳生産量：2022年農協聞き取り、全道は農林水産省 2022年牛乳製品統計



出典：気象庁ホームページ(https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php)からデータを収集し作成
平均データの統計期間は1991年～2020年



また、乳用牛飼養頭数は6万4千頭、経営体当たりの飼養頭数は112頭、生乳生産量は31万9千tで、乳用牛飼養頭数及び生乳生産量は全道の約7～8%を占めています。

管内の酪農は、豊富な土地資源を活かし、生産基盤の整備、TMRセンター(※1)やコントラクター(※2)の活用による自給飼料の確保、家畜ふん尿の適正還元、農作業の効率化等を図りながら、安全・安心で美味しい生乳等の生産に努めています。



牧草の収穫作業

※1：TMRセンターは、粗飼料と濃厚飼料を混合した飼料 (Total Mixed Ration) を調整する拠点施設
※2：コントラクターは、粗飼料の収穫作業、ふん尿等散布作業を請け負う組織
※3：農業経営体数は、農産物の生産活動を行う農家及び法人数

水産業

宗谷管内の水産業は、日本海及びオホーツク海に面する恵まれた立地条件や武蔵堆などの優良な漁場を背景に、ホタテガイ、ホッケ、サケ・マス、コンブ、ウニ、ナマコなどの沖合・沿岸漁業が営まれています。宗谷管内の漁業生産量・生産高は全道の約2割を占めており、管内の基幹産業として、水産加工業など関連産業の発展に寄与しています。

令和4年は、輸出需要の増大や魚価高に恵まれ、漁業生産量は19万1千t、生産高は650億円と、令和3年と比べ生産量は横ばいでしたが、生産高は約23%の増加となり過去最高を記録しました。

主な魚種の生産は、ホタテガイが13万5千t(344億円)、サケ・マスが1万4千t(112億円)、ナマコが7百t(36億6千万円)、タコが3千t(22億1千万円)となっています。

出典：令和4年北海道水産現勢

観光

観光は地域産業にとって重要な位置付けとなっており、関連する業種は、運輸業、宿泊業、飲食サービス業のほか、地場の素材を活かした産品を開発する製造業などで、地域経済に大きな波及効果をもたらす存在です。

その資源は、希少な動植物の拠り所となる「利尻礼文サロベツ国立公園」、「北オホーツク道立自然公園」を中心に、フォトジェニックな「白い道」やダイナミックな周氷河地形を擁する「宗谷丘陵」、日本のてっぺん「宗谷岬」、泉質の類い稀なる「豊富温泉」、モダンな美しさと歴史的価値を兼ね備えながら越波防止のために現在も活躍し続ける「稚内港北防波堤ドーム」など多様です。

これらの豊かな景観や自然環境に適応する形で地域の魅力を味わう方法として、自転車を活用した観光施策が広がりをを見せています。

令和4年度における管内への観光入込客数は163万9,400人であり、コロナ禍前の令和元年度(208万5,800人)と比較すると78.6%と回復傾向でした。

令和5年度上期においては、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類に移行され、行動制限がなかったことや、地域のイベントが通常開催されたことなどから観光入込客数は前年度上期(120万6,400人)と比較して増加しており、観光入込客数は137万8,100人となりました。コロナ禍前の令和元年度上期(161万2,200人)と比較すると、85.5%まで回復しており、今後も観光客の増加が期待されます。

出典：宗谷管内市町村観光入込客数調査結果(北海道宗谷総合振興局産業振興部商工労働観光課調べ)



宗谷岬

管内市町村の概要

市町村名	面積／人口	市町村の概況	観光案内	市町村名	面積／人口	市町村の概況	観光案内
 稚内市 Wakkanai City	761.42km ² 30,945人	日本最北端の都市で、水産、酪農、観光が基幹産業。地球環境負荷の低減のため、風力を中心とした再生可能エネルギーの導入拡大を推進している。市名の由来：ヤム・ウッカナイ(冷たい水の出る沢)	稚内公園、稚内森林公園キャンプ場、ノシャップ岬、稚内ノシャップ寒流水族館、道の駅わっかない、稚内港北防波堤ドーム、わっかない海の駅、大沼、宗谷岬、メグマ沼、宗谷丘陵、白い道、道立宗谷ふれあい公園、氷雪の門、九人の乙女の碑、旧瀬戸邸	 豊富町 Toyotomi Town	520.69km ² 3,583人	全国から多くの湯治者が訪れる石油質の温泉、雄大な自然の中で展開されている放牧型酪農、低地でありながら高層湿原の環境を有する大規模湿原が有名なまち。町名の由来：エベコロベツ(何でも「豊富」にある)	サロベツ湿原センター、豊富温泉、大規模草場牧場、兜沼公園(キャンプ場、オートキャンプ場)、ペンケ沼、サロベツ原生花園、宮の台展望台、言問の松
 猿払村 Sarufutsu Village	589.99km ² 2,650人	日本最北端の村で、北海道で一番面積の広い村。日本有数のホタテの水揚げ地として有名。総面積の約8割を山林や原野が占め、手つかずの自然が広がる。村名の由来：サロフト(葦原の河口)	道の駅さるふつ公園、さるふつ公園(インディギルカ号遭難者慰霊碑、キャンプ場)、ポロ沼、カムイト沼、エサヌカ原生花園、モケウ二沼、猿払村道エサヌカ線	 礼文町 Rebun Town	81.64km ² 2,253人	海抜わずか500mの低地で高山植物が鑑賞できる「花の浮島」。「レブンアツモリソウ」を始めとする固有種の希少さもあり、全国からの観光客でにぎわう。町名の由来：レブン・シリ(沖の島)	スコトン岬、澄海岬、地蔵岩、北のカナリアパーク、礼文島温泉、緑ヶ丘公園キャンプ場、礼文岳、高山植物園、久種湖、久種湖畔キャンプ場、レブンアツモリソウ群生地、日食観測記念碑、桃台猫台、桃岩展望台
 浜頓別町 Hamatoribetsu Town	401.59km ² 3,302人	オホーツク海に面し、酪農と漁業が盛んなまち。クッチャロ湖はラムサール条約登録湿地であり、コハクチョウをはじめ多くの渡り鳥の中継地、越冬地となっている。町名の由来：トウン・ベツ(湖沼に入る川)	クッチャロ湖、クッチャロ湖キャンプ場、ベニヤ原生花園、はまとんべつ温泉、ウソタンナイ砂金探掘公園、神威岬、道の駅北オホーツクはまとんべつ、オオワシの森、水鳥観察館	 利尻町 Rishiri Town	76.50km ² 1,867人	利尻昆布やウニなどの海の幸の豊かさを、漁師体験や加工体験を通じて体感することが出来る。植生の多様さも見所。町名の由来：リイ・シリ(高い島)	利尻山、見返台園地、沓形岬公園、沓形岬公園キャンプ場、仙法志御崎公園、森林公園キャンプ場、利尻ふれあい温泉、利尻島の駅
 中頓別町 Nakatonsbetsu Town	398.51km ² 1,505人	北緯45度線上に位置し、酪農と林業が基幹産業。カヌー体験や登山などのアウトドアが充実する雄大な自然に恵まれたまち。町名の由来：トウン・ベツ(湖沼に入る川)	中頓別鍾乳洞、パーチャン川砂金掘体験場、敏音知岳、ピンネシリ温泉、ピンネシリオートキャンプ場、道の駅ピンネシリ	 利尻富士町 Rishirifuji Town	105.62km ² 2,195人	日本百名山「利尻山」の登山者を、名水百選「甘露泉水」と森林浴の森日本百選「利尻島自然休養林」が迎え入れる。豊かな自然に恵まれた観光と漁業のまち。町名の由来：リイ・シリ(高い島)	利尻山、姫沼、オタトマリ沼、沼浦キャンプ場、利尻富士温泉、ファミリーキャンプ場ゆーに、富士野園地、北麗野営場
 枝幸町 Esashi Town	1,115.65km ² 7,302人	広大な土地に広がる森林と豊かなオホーツクの海に囲まれたまち。毛ガニ、ホタテ、サケの一大生産地。(2006年3月、旧歌登町と合併)町名の由来：エシヤシ(海岸へ突出した崎)	ウスタイベ千畳岩(キャンプ場、オートキャンプ場)、三笠山展望閣、オホーツクミュージアムえさし、枝幸温泉、道の駅マリニア일랜드岡島、ハマナス交流広場キャンプ場、ふれあいの森キャンプ場、神威岬、歌登温泉	 幌延町 Horanobe Town	574.10km ² 2,102人	冷涼な気候を生かし、神秘的な「青いケシ」を始めとする高山植物を栽培している。観光牧場では年間を通してトナカイとふれあうことができる。町名の由来：ボロ・ヌブ(大きな平原)	トナカイ観光牧場、金田心象書道美術館、オトンルイ風力発電所、幌延ビクターセンター、パンケ沼、ふるさとの森森林公園キャンプ場
合 計				4,625.70km ² ／57,704人			

出典：面積は令和5年10月1日現在全国都道府県市区町村別面積調(国土院)人口は令和5年12月31日現在住民基本台帳人口・世帯数・住基ネットにおける人口【参考値】(北海道総合政策部)
※なお、面積の合計値は、端数整理により一致しない場合があります。